

Book

協働での取組、 壁にぶつかったときに開く一冊

社会問題が複雑化するなかで協働は欠かせない要素となってきている。一方で効率的に活動を実施するということが定着している今では、他者と協働するなかで多くのつまずきがあることに気づいている人も多いのではないだろうか。本書は、「誰か一人の力で問題が解決することはない」という前提にたち、だからこそ多くの人と一緒に社会問題に立ち向かおうとする人たちにとってのガイドとなるべく出版された。困ったとき、壁にぶつかったとき、自分自身がおかれている状況（ステップ）を見つめ直したり、その状況に応じたヒントを得たりするためにも参考にしたい1冊だ。

「ソーシャルプロジェクトを
成功に導く12ステップ
コレクティブな協働なら解決できる！
SDGs時代の複雑な社会問題」
佐藤真久、広石拓司 著
株式会社みく出版(2018年)
1800円+税



Activity

エディブル・ランドスケープを展開し、 いざという時に助けあえるつながりを

東日本大震災の直後、都内でも食べものが買えなかった際に近所から分けてもらった体験から、エディブル・ランドスケープ（食べられる景観）に注目した千葉大学大学院園芸学研究科木下勇地域計画学研究室の学生グループが、地域住民と協力し、野菜やハーブなどの食べられる植物を育てるプロジェクト「EDIBLE WAY 食べられる道」をスタート。沿道の小さなスペースに、持ち運び可能なフェルトプランターを置き、住民たちが野菜を育てることで「エディブル・ランドスケープ」を展開。収穫物は地域の空き家で行うコモンキッチンでも使われ、ゆるやかに人がつながり安心して豊かに暮らせるまちづくりを目指している。

EDIBLE WAY
食べられる道
<http://edibleway.org/>
2016年より、JR松戸駅から千葉大学松戸キャンパスまでの約1kmの道を中心に野菜を育てている。



Space

身近なアクションで 寄付を始めるきっかけを

NPO法人グリーンバードは、渋谷区原宿に寄付や社会貢献をテーマにしたコミュニティスペース「subaCO」をオープンした。スペース内には、環境・保育・障がい者雇用など課題に取り組む団体の活動紹介パネルと、携帯電話の充電ボックスがセットで設置され、充電代が各団体へ寄付される仕組みとなっている。他にもドリンクや絵葉書販売しており、これらも購入すると一部が寄付となる。夜はトークショーやワークショップなど、様々なチャリティイベントを開催。自分の考えや活動を世の中に発信したい人に対して、アウトプットの場を「寄付」している。

寄付をはじめめるコミュニティ
スペース「subaCO」
<http://su-ba-co.com/>
昼の部 13:00～18:00(定休日：火)
夜の部 19:30～21:30(定休日：土日)
2020年12月末迄



Goods

消えすぎるくらいによく消える 国産材を使った木のホワイトボード

江東区にある創業86年の細田木材工業株式会社が製造販売している木のホワイトボード「きえすぎくん」。独自に開発した特殊塗装を木材に施し、ホワイトボード用マーカーや水性ペン、水性クレヨンでなめらかに書くことができ、気持ちよく消すことができる。東京の多摩産杉を使用した商品開発だったことも名前の由来となっているが、最近は希望樹種や各地の材を使った対応が可能。ホワイトボードの他にも、内装材・ウェルカムボード・テーブルの天板・ノベルティグッズなど、木の質感を残した温かみを感じられると、多様な用途に活用する場が広がっている。

「きえすぎくん」
細田木材工業株式会社
<https://www.woody-art-hosoda.co.jp/>
最近は壁に取り付ける型の「きえすぎくん」の注文が増加

